

和装文化の
足元を支え続ける
足袋蔵のまち行田

行田市のまちづくりが評価され、「和装文化の足元を支え続ける足袋蔵のまち行田」が、埼玉県唯一の日本遺産に認定されています。



行田市の日本遺産認定ストーリー(概要)

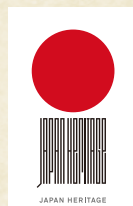
忍 城の城下町行田の裏通りを歩くと、時折ミシンの音が響き、土蔵、石蔵、モルタル蔵など多彩な足袋の倉庫「足袋蔵」が姿を現す。行田足袋の始まりは約300年前。武士の妻たちの内職であった行田足袋は、やがて名産品として広く知れ渡り、最盛期には年間8,400万足もの足袋を生産するまでに発展した。それとともに明治時代後半から足袋蔵が次々と建てられていった。今も日本一の足袋産地として和装文化の足元を支え続ける行田には、多くの足袋蔵など歴史的建築物が残り、趣きのある景観を形づくっている。

行田市の日本遺産には45件の
構成文化財が認定されています

構成遺産一覧はこちら▶



What's
- Japan Heritage -



日本遺産は
こちら

日本遺産とは

「日本遺産 (Japan Heritage)」は、地域の歴史的魅力や特色を通じて我が国の文化・伝統を語るストーリーを「日本遺産 (Japan Heritage)」として文化庁が認定するものです。ストーリーを語る上で欠かせない魅力溢れる有形や無形のさまざまな文化財群を、地域が主体となって総合的に整備・活用し、国内だけでなく海外へも戦略的に発信していくことにより、地域の活性化を図ることを目的としています。

10 旧忍町信用組合店舗
(ヴェールカフェ)

長年にわたり行田の足袋産業を支えてきた旧忍町信用組合店舗が水城公園内に移築されました。現在は大正浪漫×昭和レトロなカフェとして生まれ変わり、行田の魅力を発信できる場となっています。



11 足袋とくらしの博物館

大正11(1922)年に棟上げされた元牧野本店の足袋工場で、足袋産業全盛期の面影を残しています。現在は、工場の面影をほぼそのままに残した博物館として生まれ変わり、職人さんによる実演を見学することができます。



足袋作り体験も
できます!
(有料・予約定員制)



足袋産業と足袋蔵



12 足袋蔵まちづくりミュージアム



明治39(1906)年建設の元栗原代八商店の土蔵造りの足袋蔵。現在は、日本遺産ガイダンスセンターに活用されていて、日本遺産や足袋蔵についての情報を提供しています。

13 忠次郎蔵

足袋原料問屋だった小川忠次郎商店の土蔵造りの店舗併用住宅です。国登録有形文化財に登録されており、現在は手打ちそば店として再活用されています。そば打ち教室も開催しており人気です。



～ もう一つの履物文化 ～

伝統技術 × NEWデザイン 南河原スリッパ

かつて日本一のスリッパ生産量を誇っていた南河原村(平成18年に行田市に編入合併)。

この南河原の伝統工芸を後世に残すべく、「型の丈夫さ」「履き心地のよさ」はそのままに、世界中の伝統柄の生地を用いて一新。同じデザインのものはなく、「自分だけの組み合わせ」を楽しむことができます。



▲
南河原スリッパの詳細はこちら